

チュチュ思想に依拠し、自己の力を信じ、民族的誇りを持つ

アフリカ・チュチュ思想研究委員会書記長
民主コンゴ・チュチュ思想研究全国協会会長
ロヘケレ・カロンダ・アンドレ

尊敬する参加者の皆さんと親しい参加者の皆さん

主体的アフリカは素朴な私自身を通じてイタリア共和国、より正しくはその国の首都であるローマで朝鮮民主主義人民共和国創建 75 周年に際しておこなわれるチュチュ思想研究セミナーの尊敬する組織者たちに、この機会を借りて感謝を送ります。

創建されて間もない共和国の獲得物が誕生して根を下ろし、強固になることを目撃した歴史的なこの日を記念しながら、われわれはチュチュ思想を創始することにより、親しくて兄弟的なこの国に生を与え、育ててくれた金日成主席にもっとも崇高な敬意を表しようと思います。

また、国家生活のすべての領域でチュチュ思想を実践に完璧に具現した金正日総書記と創造的英知で国事を老練に指導して朝鮮民主主義人民共和国を全世界に自主、独立、平和愛好的な社会主義強国としてさらに強化発展させ、驚異的な社会発展を成し遂げることにより、朝鮮人民だけでなく、全世界を驚嘆させる金正恩総書記に崇高な敬意を表する次第です。

まさにそうです。尊敬する組織者のみなさん、

自主、主権、社会発展に関する活気と交流は多極化へと進む今の世界で時代の基本関心事となることにより、時期にかなっておこなわれています。民族国家には自国民と彼らの社会的発展のために自分の政治的独立、平和と安全を完全に実現して人類により人間的でより均衡的な、より住みよい生活を保障すべき必要性がいつにもまして切実に提起されています。

アフリカにとっても切実で合法的なこの志向は、数十年前から人的および物的資源が恥ずかしげもなく略奪され、正義、公平、独立を志向する進歩的指導者が暗殺され、またこれらの人民の文明の低劣さが紛々として論議されていた、それこそ世界のもろい弱小国家であったことにより、人民とその指導者にとってはさらに切迫に提起されています。

しかし、現代に入り、アフリカの青年は何か根本的に変わるべきであり、時計の秒針を正しく合わせるべきであるという自覚をより強烈にもっています。時計の秒針を合わせるということは自分自身の運命だけでなく、自己の周辺に存在するすべての潜在力の主人になるべきアフリカ人の尊厳を回復するということを意味します。将来、

アフリカ人民は世界舞台に自主的人間として登場することを決心した歴史の主体となりました。

主席がつねに述べているように、われわれはかつて植民地従属国家と資本主義世界化の影響に挑戦する国々のための自主時代に生きています。われわれは必ずわが人民の力に依拠し、わがアフリカ諸国の特異な状況を考慮に入れるべきです。それゆえ、わが民族国家の自主権を守るための政治的独立を内的に強化しなければなりません。各民族は各自が自己の運命の主人であり、それを開拓することに必要な力も自分自身にあり、したがって民族的独立を実現可能なものであるとわれわれに教える主体性を堅持し、そうすることによってのみ自己の尊厳を守り、自主的に発展することができます。

しかも、この民族的独立は権利的で正義ありバランスの取れた合理的な国家建設を要求する大衆の強い志向に優先権を付与するときのみ強固になることができます。

こう見ると、各国の自主権は、その国に国際関係の中で自分を尊重されるようにする内部的力を持っているときにのみ効率的になりうるのです。民族の自主権とは結局、各国がこうした対外関係の中でそして、内部的な各部門の活動の中で実施している国家の自主政治に従属されるものです、国の政治的自主性を強化するのは国の社会的、軍事的および政治的力量がその強化のために協力することを要求する死活の問題です。なぜならば、これがなければ、効率的な自主性もないからです。それゆえ、アフリカ人にとって何よりもまず、外部勢力の圧力や干渉を許さない自分たちの主要思想に依拠して自分たちの力を信じ、自力更生をし、民族的誇りを持つことが非常に重要な問題として提起されます。すべてのアフリカ市民は自国の歴史と地理、経済と文化、自国人民の風俗と風習をよく知るべきであり、新しい技術に精通しなければなりません。また民族文化遺産を大事にし、帝国主義列強にたいする事大主義と彼らが強要しようとする立ち遅れた他の諸思潮に反対、排撃しながら社会的価値にもとづいた民族文化を積極的に奨励すべきです。だからといって、国家の自主的な政治実践は国際的協力を排斥するのではなく、反対に各国の自主権尊重と相互間に実利のある結果を保証する協力を鼓舞しています。これはある側による他の側の搾取にもとづいたものではありません。

したがって、自主的な政治実践のための必須の基礎は自立的な民族経済建設とともに強力な自衛的国防力による保証です。自立的民族経済建設は「主体化」を変わることなく堅持するという戦略的路線に基づいています。言い換えれば、自らの技術的資源を基本にして経済を国の現実に合致させ、人民経済の近代化と科学化、そして技術装備の絶え間ない近代化とすべての生産活動の科学化に依拠すべきです。これとともに勤労人民大衆をこうした経済建設と社会経済的結果物を公正な分配に積極的に参与させるべきです。こういうところからわがアフリカ諸国では絶対多数の大衆にそっぽ

を向き、失業大軍をつくり出すシステムに歯止めをかけるべきです。

民族自主政治の基盤となる自立的民族経済を建設するためにチュチェ思想の要求に相応しく解決すべき先決条件は、指導者たちとすべての人民大衆の所有となっている真の愛国主義的文化であり、人々と財宝の安全を保証する真の民族的自衛の強化です。

アフリカ経済の包括および計画政策を強化し、促進させる側面では次の必要性に注目すべきです。

それは地域的および大陸的組織体の内的経済システム計画化による民族経済の強化であるが、ここで注意すべきことは指導者と人民の反対にもかかわらず、こうした組織体を自分らの利益取得のための道具に利用しようとする帝国主義列強にたいする奴隸的屈従に従わないようにすることです。

次に、都市中心と農村間の日増しに深まる不平等を最小化するための都市と地方の均衡的発展の促進です。

また、アフリカ同盟の内的能力の強化ですが、アフリカは次第に自分にたいする責任感を学ばなければなりません。

こうしたことはみな互いに相互作用する要因としてわが国内部での持続的な平和つまり戦争のない平和のみではなく、心と精神上的の平和に寄与できます。今日、アフリカ大陸は一連の同族相争いによってずたずたになっており、特に民主コンゴの東部がそうです。そこでは多民族主義者の道具として成り下がった一部の周辺諸国が凶々しくも国の資源を略奪するために自分たちの武装勢力を唆して地域人民にたいする虐殺を引き続きおこなっています。サヘル地域諸国も自国人民にたいする安全を脅かし、発展を阻害するジハード武装勢力と対立しています。前チャド大統領イドリス・デビはある談話席上で「サヘル地域にジハード勢力が存在することができたのはアフリカ諸国の発展を弱体化させるための西側列強の支援の結果である」といいました。混雑したこの戦争の進行過程を見ると、非常に気がかりなこの言葉が正解かもしれないと思われまふ。こういうことにより、アフリカ同盟と地域および傘下組織団体は外部列強の専横にうなづくのではなく、自国人民の合法的な利益のみを守るために再度覚悟しなければなりません。

終わりに、主体的アフリカは国際秩序の均衡を回復するための世界的な動きが激しく繰り広げられている条件で国際業務管理で互いに利得がある交流と民族間の対話を促進し、すべての国の自主権が尊重される多極性を積極的に奨励するための行動にさらに拍車をかけるでしょう。

2023年8月8日

キンシャサ